

実火災訓練教育を実施しました



室内火災発生時の濃煙熱気を体験できる「実火災体験型訓練施設」において、火災性状、注水効果及び個人装備に関する理解を深め、災害現場での受傷事故等を未然に回避できる隊員の育成を目的とした「実火災訓練教育」を実施しました。

[期 間] 第 9 回 令和 4 年 3 月 1 6 日 (水)

第 1 0 回 令和 4 年 3 月 1 7 日 (木)

第 1 1 回 令和 4 年 3 月 2 3 日 (水)

第 1 2 回 令和 4 年 3 月 2 4 日 (木)

いずれも 1 日間の日程で実施

[会 場] 埼玉県消防学校

[到達目標] 火災現場における各級指揮者として、消防活動に困難を伴う災害現場において、安全管理に配慮しつつ、適切・効果的な消防戦術を
できる。

熊谷市消防本部 小林 壮史 消防司令補

【修了後の感想】

近年、一般住宅においても非木造住宅が増加し、更に建築資材の進化により高気密、高断熱化が進んでいます。

また、住宅用火災警報器の設置率が向上し、消防機関への通報が早くなる反面、活動開始後にフラッシュオーバーが発生する危険性が増加している状況です。

本教育では、こういった背景で起こり得る火災性状の変化や、熱、煙、放水による環境の変化を体験し、更に個人装備の完全着装の重要性を確認できました。

テナ内刻々と変化する火災性状や環境の変化を間近で見て、また肌で熱を感じることで、現場でいかに隊員の受傷事故を未然に防ぐかということの重要性を再確認するいい機会となりました。

本教育で得たものを共有し、誰もが適切な判断ができるようになることで、災害現場での受傷事故ゼロを目指したいと思います。



【後輩へのメッセージ】

この実火災訓練教育は、火災現場ではなかなか経験することができない火災の性状変化や、放水が与える影響、密閉空間での温度変化等を整った環境下で自身の「五感」で体験できる貴重な場です。

また、普段何気なく装着している個人装備を「完全着装すること」の重要性も再確認することができます。

1人でも多くの隊員がこの教育を受講し、今まで机上で学んだことや先輩からの経験談に加え、実際に自身が肌で感じた体験をもとに、受傷事故ゼロを目指しましょう。

訓練の様子

